

『野口みずきと十牛図と米長名人と商店街のおっちゃん』の関係

皆さん、四日市での定修工事ご協力ありがとうございました。25時間という限られた時間の中でベストなパフォーマンスと見事なバトンタッチを見せていただき、無事工事が完了いたしました。

そしてまたすぐに夏期連休工事に入参してまいります。疲労が蓄積して『近道行為』などのヒューマンエラーが出やすくなりますので、くれぐれもお互い仲間の命を預かる『安全マン』としての自覚とプライドを、38度の日差しの中でも何卒忘れないように切にお願いいたします。体の疲労度がまったく考慮に入っていない机上の完全無欠な安全対策を聞かされるくらい、作業者の心を虚しくさせるものは無いと常日頃思っておりますので、私も共に汗を流し、体に疲労を蓄積させてから、どうやって安全を確保できるか、ヒューマンエラーを無くせるかに一緒に取り組んで行きたいと思えます。

さて夏期連休工事と共に始まるのが北京オリンピックです。私の1番の関心は女子マラソンです。女王野口みずき選手がいったいどう走りをするかに注目しています。多分中国の2人の選手とのデッドヒートになるのではと予想しているのですが、中国の2人の選手は『家族の暮らしを楽にする為』に走ると言われております。これはかなり強烈なモチベーションです。『自分の名声』の為に走るよりも深いところからエネルギーが供給される為、最後までタフな走りをしてくると思えます。

それに対してコンビニで賞味期限が近いパンをレジに持ち込むと、『あ、お取替えしておきます！』と感ぜよくさつさと処分してしまう、良いのか悪いのかよくわからない飽食国家日本を代表する野口みずき選手が、いったい何を原動力に42.195キロを走り切り、勝利するのか、じっくりと2時間20分間注視してみたいと思えます。

中国4000年の教えの中に、『人』と『人を突き動かす原動力』の関係を『人』と『牛』との関係で10段階で表現した『十牛図』という禅画があります。牛（原動力）が強力であればあるほど、どんどんと前に進むことができますが、行き過ぎると勢い余って主人が振り落とされてしまいます。かといって、最初から無欲な牛ではるくに前に進みません。

この牛と人との関係はスポーツだけでなく、経営や人生にも当てはまります。私は以前、イケイケドンドンな、どんな仕事にも飛びつくダボハゼのような経営をしていました。しかしあるとき、社員が大きな事故にあってから、自分を振り返り、いったい何をそんなに焦って経営しているのか？時間をかけて深く考えるようになりました。そして自分を突き動かしている原動力（牛）を探し、見つけることができました。

その牛の正体は『人に認められたい！』という強い欲でした。私は2年アルバイトをして、その後すぐに社長になったので、経営に対する自信が無かったのだと思えます。ですから牛を猛牛状態（笑）にして突き進んでいました。その結果勢い余って振り落とされた（事故）のだと思えます。今は社長業17年目ですから、かなり上手に牛に乗れる（安全な工事が確保できる範囲での利益の追求）ようになりましたが、今でもちょくちょく振り落とされそうになります。私の中には社員の給料を毎年上げ、社員旅行も毎年海外に連れて行ってやりたい！という欲求があり、けっこう義務感的なプレッシャーにもなっているのです、少し無理かなと内心思っている仕事も受けてしまうことがあります。そういう時はたいてい何かヒヤッとすると（振り落とされそうになる）出来事が起こったりします。不思議と。

さて、十牛図第6図まではそんな感じではないかと思えますが、第7図以降は私には解説不能ですので、将棋の米長名人の言葉を借りて説明いたします。

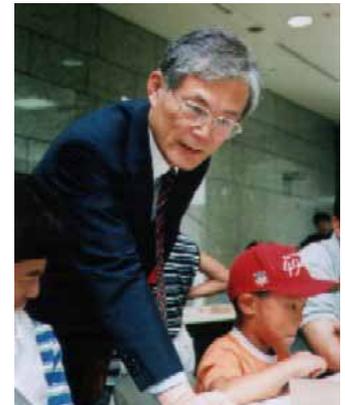
第7図は牛が消えてしまいます。これは将棋の世界では『将棋盤の向こう側を消す』と言われております。相手が強い名人だとか、かなわないんじゃないかとか、そういう思いを消すということです。

次に第8図ですが、ここでは人も牛も消えてしまいます。これは『将棋盤の手前も消す』ということで、タイトルを取ろうとか、この勝負に負けたら王座陥落だとか、そういう雑念を取り除くことを言います。

そして第9図は無心で躊躇無く手が伸び、将棋盤の向こう側も手前側もすべて捨て去って、将棋盤だけが相手になって自分の実力を発揮できる、まさに自然体の状態を表現しています。

そして最後の第10図はそのような各分野の道を究めた名人が実社会の場を下りて若者に教を諭している図です。新たな縁（サイクル）が結ばれる場面でもあります。

米長名人の言葉を引用します。『僕はまず、その人の空気を見るんです。座り方とか将棋盤を見るんですね。まず、背骨がぴんとしていて、きっちと正座をして、将棋盤に穴が開くんじゃないかというほどじっと将棋盤を見ている。これは間違いなく強くなります。この3つが出来ていない子は目的意識というか、強くなるんだというものが体の中から出てこないから、姿勢もふにゃふにゃしてしまうわけです』。名人の教えが技術的や戦術的なことではなく、座り方、背筋、視線の3つだけというのは非常に興味深く、工事業でも掃除、挨拶、相手への思いやりなどがなにより重視されるのは先人の知恵が継承されている証しではないかと思えます。



野口みずきの座右の銘は『走った距離は裏切らない』です。周春秀、ヌデレバ、ラドクリフなどの猛牛というかバッファロー軍団を、よく鍛えぬかれた、主人を絶対裏切らない名牛が迎え撃つ形のレースになります。

近代スポーツは柔道などもそうですが、腕力（バッファロー）に屈することもしばしばあります。商店街の味のある経営をしている商店が、郊外の大型資本金に駆逐されていくかのごとく、もろく敗れ去ります。だからこそ野口みずきにはこの十牛図の階段を一步一步登りながら金メダルを手にしてもらいたいと思えます。そして彼女の姿が日本人に多くの気づきと勇気を与えてくれると思えます。商店街のおっちゃんも十牛図でがんばれ！！と。

感謝 羽原篤史